

# 遠藤周作学会 会報

第9号

2014年10月18日

発行 遠藤周作学会

代表 笠井 秋生

二〇一四年度遠藤周作学会・全国大会

総会報告

事務局より

## ◇第九回二〇一四年度遠藤周作学会・全国大会開催

第九回二〇一四年度遠藤周作学会・全国大会は、二〇一四年九月二十日（土）に、白百合女子大学にて開催された。

運営委員会が十一時半より行われた後、十三時より会場校である白百合女子大学の福田耕介氏より開会の辞が述べられた。なお、今大会は福田氏が所長を務める白百合女子大学キリスト教文化研究所に後援をいただいた。次に、総会が行われた後、以下プログラムのとおり研究発表が行われた。続いて、スール・松井千恵氏による講演が行われた。大会進行役は星美学園短期大学の武田秀美氏、及び、文芸評論家の今井真理氏が担当した。ノートルダム清心女子大学の山根道公が担当した。

## プログラム

### 【研究発表】

① 「中間小説誌」の時代における遠藤周作

名桜大学 小嶋洋輔

司会 文芸評論家 今井真理

② 「日本の沼の中で―かくれ切支丹考―」に見る遠藤

のキリシタン理解―歴史史料との関りを中心に

上智大学大学院 香川雅子

司会 桜美林大学 長谷川（間瀬）恵美

③ 遠藤文学における「ペドロ岐部」

―逆説としての「強者」―

京都外国語大学 長濱拓磨

司会 上智大学キリスト教文化研究所

兼子盾夫

④『女』に込められた永遠への眼差し

——〈女〉の継承性を視座として——

関西学院大学大学院研究員 古浦修子

司会 昭和女子大学 笛木美佳

【講演】

⑤遠藤さんをめぐる〈ひよこ〉の思い出

マ・スール松井千恵

【総会】

総会は、議長に片山はるひ氏を選出して開かれた。まず、二〇一三年度事業報告がなされた。内容は次のとおり。

◆ 役員の改選について、運営委員で検討した結果、笠井氏に代表を継続していただき、川島氏を副代表として、運営委員全体で協力していく体制で今後もすすめる案が出され、承認された。また、事務局長については、次期も山根氏が務め、

事務局長補佐は井上氏が担当、現運営委員は、

留任し、新運営委員として、古浦修子氏及び、

古橋昌尚氏が加わる案が出され、承認された。

さらに、機関誌編集委員の研究展望担当を、笛

木氏から池田氏に引き継ぐ案が、承認された。

◆ 第八回二〇一三年度遠藤周作学会・全国大会を

慶應義塾大学にて開催。会員三十八名、聴講者

約四十名の参加があった。

◆ 機関誌『遠藤周作研究』第七号発行。

第7号は発表者三人に笠井代長をはじめ四人

の投稿論文と、加藤宗哉氏の講演原稿を掲載。

笛木美佳氏による二〇一三年遠藤周作参考文

献目録及び研究展望も収録。

◆ 会員数は、二〇一四年九月時点で九十一名。二

〇一三年度の新会員は五名。

次に、事務局より二〇一三年度会計報告が行われ、

太原正裕氏により監査報告がなされ、承認された。

続いて、事務局より二〇一四年度事業計画につい

て示された。内容は次のとおり。

◆ 遠藤周作事典の企画について、遠藤周作没後二十年の刊行をめざして調査中。

◆ 第九回二〇一四年度遠藤周作学会・全国大会を白百合女子大学にて開催。

◆ 機関誌『遠藤周作研究』次号（第八号）は、今回の発表者の原稿を掲載予定。募集要項等はこれまで通り。

◆ 二〇一四年度韓国日本キリスト教文学会 国際学術シンポジウム（遠藤周作文学の特殊と普遍）（日時：十二月五、六日、場所：仁川大学）に共催し、本学会より十二人が参加し、十人が研究発表、講演、シンポジウム発題を行う。

◆ 二〇一五年度の大会は、町田市民文学館で、二〇一五年九月十九日（土）に開催予定。

最後に本学会副代表の川島秀一氏の閉会の辞をもって全国大会の日程を終了した。約四十名が懇親会会場に移動し、新会員や発表者、講演者の挨拶が行われ、始終和やかな交流が行われた。

#### ■ 事務局より

▼第九回遠藤周作学会・全国大会は、白百合女子大学にて開催しました。参加者は会員四十名に、聴講者が約四十名加わり、大変盛会でした。この開催のためにご尽力くださいました、会場校の福田耕介氏及び、福田氏が所長を務めるキリスト教文化研究所にはご後援をいただき、改めて御礼申し上げます。

▼今回の大会の研究発表は、大学院生一名を始め、若手の研究者による幅広い視点による作家論及び新資料に基づく作品論等の充実した発表の場となりました。今回は発表時間が各自四十分あり、質疑も活発に交わされ、活気あふれるものとなりました。今後、充実した内容が機関誌にまとめられますことを楽しみにしています。

また、マ・スール松井千恵氏の講演は、遠藤氏の書簡や写真等、スライドで示しながら、遠藤氏との交流の思い出をユーモラスなエピソードなどを交えて語られ、遠藤氏の信仰や人間性を伝えてくれるものでした。

▼機関誌「遠藤周作研究」第八号の投稿論文を募集します。機関誌の最後にある投稿規定をご覧のうえ、会員の方々の意欲的な投稿が多く寄せられることをお待ちしております。

▼次回の研究発表の申込みは来年五月末日締切りです。三月に改めて募集のお知らせをいたします。

次回の会場は、遠藤周作関係資料を多く保管し、今年一月から三月には二度目の遠藤周作展を開催している町田市民文学館で行われます。町田市は、遠藤周作が一九六三年から約二十五年間住み、『沈黙』、『死海のほとり』『侍』などの代表作を世に送り出した縁の土地で、本大会の第十回の記念の大会を開催するにふさわしい地です。

多くの学会員が集い、充実した研究発表がなされ、盛会となりますことを期待します。

▼今年十二月には、二〇一四年度韓国日本キリスト教文学会 国際学術シンポジウム（遠藤周作文学の特殊と普遍）に本学会も協力し、充実した大会が行われる予定です。機関誌で大会の様子を報告できればと思います。

▼笠井代表はしっかりと歩かれるのが難しい以外は、ご健康で、遠藤作品の研究をさらに精力的に進められておられ、会員数の増加及び、会員の投稿がますます増えることを強く期待されています。

▼最後に学会員の方々にご協力があります。機関誌の「遠藤周作参考文献目録及び研究展望」は、次回より池田氏が担当されますので、遠藤周作に関する、会員方々の論文はもちろん、入手できた参考文献についての情報を、池田氏に直接、お知らせください。また、これまで参考文献目録について、遺漏のある場合も、池田氏にご連絡お願いします。

そうした学会員間の情報交換を目的に、今年度も学会員名簿を配布いたします。記載されている個人情報保護には十分のご配慮をお願いします。

#### 遠藤周作学会 事務局

〒700-8516 岡山市北区伊福町2-16-9

ノートルダム清心女子大学 山根道公研究室

TEL: 086 (252) 3129

E-mail: yamane@post.ndsu.ac.jp